

四半期報告書

(第77期第1四半期)

自 平成23年4月1日

至 平成23年6月30日

ニチコン株式会社

京都市中京区烏丸通御池上る
二条殿町551番地

E01904

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 6
- (2) 新株予約権等の状況 6
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 6
- (4) ライツプランの内容 6
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 6
- (6) 大株主の状況 6
- (7) 議決権の状況 7

2 役員等の状況 7

第4 経理の状況 8

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 9
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 11
 - 四半期連結損益計算書 11
 - 四半期連結包括利益計算書 12
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 13

2 その他 15

第二部 提出会社の保証会社等の情報 16

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第77期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 荒木 幸彦
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 近野 斉
【最寄りの連絡場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部経理部長 近野 斉
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第1四半期 連結累計期間	第77期 第1四半期 連結累計期間	第76期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高（百万円）	25,203	29,587	105,914
経常利益（百万円）	726	1,996	3,858
四半期（当期）純利益（百万円）	403	1,247	2,618
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	△1,263	1,144	177
純資産額（百万円）	92,962	94,332	93,928
総資産額（百万円）	127,782	136,067	130,559
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	5.65	17.47	36.65
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	72.0	68.6	71.0
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	3,343	2,423	7,041
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△1,086	390	△5,080
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△537	△653	△1,716
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（百万円）	16,053	16,224	14,143

（注）1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第76期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

4. 第76期第1四半期連結累計期間および第76期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第77期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

6. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年6月30日）のわが国経済は、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響に伴う生産活動の低下に加えて、電力不足問題や円高の加速など深刻な状況が続きました。海外においては、中国を含む新興国市場での内需拡大などがありましたが、米国経済は雇用問題の改善の遅れから景気回復ペースが鈍化し、欧州でも財政危機問題が再燃するなど不透明感が拡大しました。

当社グループが関連する市場におきましては、新興国の経済成長に伴う需要拡大もみられましたが、デジタル家電機器やパソコン等の製品在庫調整、東日本大震災後の自動車関連機器市場向けの需要鈍化などにより電子部品の需要は総じて低調に推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは中期経営計画のビジョンに沿って、高い成長力が期待できるエコ関連機器、EV/HV（電気自動車/ハイブリッド車）、インバータ関連事業を当社経営の新たな柱とするために、環境関連のパワーエレクトロニクスビジネスを統括する「ネクスト（NECST=ニチコン・エネルギー・コントロール・システム・テクノロジー）プロジェクト」を推進し、事業化を進めています。また、中国をはじめとする新興国市場における販売拡大への取り組みに合わせ、海外での生産増強を継続的に図るとともに、品質の向上や原価低減の諸施策に徹底的な取り組みを行いました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は29,587百万円と前年同期比17.4%の増収となりました。また、利益につきましては、営業利益は2,210百万円と前年同期比97.7%の増益、経常利益は1,996百万円と前年同期比174.8%の増益、四半期純利益は1,247百万円と前年同期比209.3%増の大幅な増益となりました。

製品区分別売上高につきましては、電子機器用は、デジタル家電機器、情報通信機器およびインバータ機器向けなどの需要が好調に推移したことなどにより23,095百万円と前年同期比20.1%の増収となりました。

電力・機器用及び応用機器は、電力用および応用機器の売上減少などにより2,360百万円と前年同期比5.4%の減収となりました。

回路製品は、スイッチング電源では事務機器向けの需要が比較的堅調に推移したことに加え、機能モジュールについて電気自動車用新製品の量産化などにより3,890百万円と前年同期比17.7%の増収となりました。

海外売上高につきましては、アジア市場において情報通信機器およびインバータ機器向けの受注が堅調に推移したこと、欧米市場においても自動車関連機器向けの需要が増加したことなどにより13.7%の増収となりました。一方、国内市場についても全般的な需要の増加などにより22.8%の増収となりました。これらの結果、連結売上高に占める海外売上高の割合は、前年同期比1.9ポイント低下し57.5%となりました。

設備投資につきましては、企業競争力の更なる強化と販売競争の激化、グローバル体制の構築に対処するための増産投資、技術開発投資を中心に4,685百万円を実施しました。

所在地別業績は、次のとおりであります。

①日 本

国内においては、デジタル家電機器やインバータ機器向け需要が堅調に推移したことなどにより、売上高は13,079百万円と前年同期比19.0%の増収となりました。営業利益は、為替円高の影響を受けましたが、差別化商品・高付加価値商品の拡販による増収効果や、生産性向上によるコストダウンおよび収益性向上対策を推進した結果、618百万円と前年同期比15.8%の増益となりました。

②米 国

米国地域においては、自動車およびAV機器向け需要の増加などにより、売上高は1,691百万円と前年同期比2.5%の増収となりました。営業利益は、販売コスト削減などを行った結果、197百万円と前年同期比56.9%の増益となりました。

③アジア

アジア地域においては、デジタル家電機器、情報通信機器およびインバータ機器向け需要が堅調に推移したことや、事務機器向け需要が比較的堅調に推移したことなどにより、売上高は12,902百万円と前年同期比15.0%の増収となりました。営業利益につきましては、増産益および材料費や人件費などのコスト削減効果により、1,024百万円と前年同期比136.9%の大幅な増益となりました。

④欧州他

欧州その他の地域においては、自動車および民生機器向け売上が順調に推移したことなどにより、売上高は1,914百万円と前年同期比41.8%の増収となりました。営業利益につきましては、販売コスト削減などの効果もあり371百万円と前年同期の22百万円から大幅な増益となりました。

・所在地別業績

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	10,987	1,649	11,215	1,350	25,203	—	25,203
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	6,461	0	799	2	7,264	(7,264)	—
計	17,449	1,650	12,015	1,352	32,467	(7,264)	25,203
営業利益	534	126	432	22	1,115	2	1,118

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	13,079	1,691	12,902	1,914	29,587	—	29,587
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	6,281	0	895	—	7,177	(7,177)	—
計	19,361	1,691	13,797	1,914	36,764	(7,177)	29,587
営業利益	618	197	1,024	371	2,212	(1)	2,210

・海外売上高

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	1,651	11,951	1,369	14,972
II 連結売上高（百万円）				25,203
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	6.6	47.4	5.4	59.4

当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	1,692	13,402	1,925	17,019
II 連結売上高（百万円）				29,587
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	5.7	45.3	6.5	57.5

・販売実績

製品区分	前第1四半期連結累計期間 （自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）		当第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）		増減	
	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	増減比 （%）
電子機器用	19,227	76.3	23,095	78.1	3,868	20.1
電力・機器用及び応用機器	2,493	9.9	2,360	8.0	△133	△5.4
回路製品	3,305	13.1	3,890	13.1	585	17.7
その他	177	0.7	241	0.8	63	36.0
合計	25,203	100.0	29,587	100.0	4,384	17.4

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ2,081百万円増加し16,224百万円となりました。当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ920百万円減少し2,423百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,859百万円の計上に加え、減価償却費が1,851百万円発生したことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって得られた資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ1,477百万円支出が減少し390百万円の収入となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が921百万円となりましたが、有価証券の償還による収入が1,500百万円となったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ116百万円支出が増加し653百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払額が535百万円となったことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、平成18年5月31日開催の取締役会において、株主価値向上の観点から、「当社株式の大量買付けに関する適正ルール（買収防衛策）」の導入につき決議し、同日付で公表いたしました。

当社は、当社に対し買収提案が行われた場合に、これを受け入れるか否かの最終的な判断は、その時点における当社株主の皆様へ委ねられるべきであり、またその場合に株主の皆様が、十分な情報と相当な検討期間に基づき、公正で透明性の高い株主意思の確認手続きを通じた判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるようにすることが、企業価値および株主共同の利益の確保と向上のため必要であると考えております。

そこで、「当社株式の大量買付けに関する適正ルール（買収防衛策）」として、①当社の株券等を15%以上取得しようとする者（買収提案者）に対し、事前に一定の必要情報を当社取締役会に提出することを要請し、②買収提案者の提案が当社の企業価値および株主共同の利益に資するか否かを取締役会において検討する検討期間を設定し、③上記検討期間を経た上で、行使条件につき差別条項を設けた新株予約権の無償割当を行うことの可否につき、株主の皆様の意思を確認するための手続きを行うことを内容とするルールを策定いたしました。

株主意思の確認手続きの結果、株主の皆様が当該新株予約権の無償割当につき賛同された場合、またはこのルールが遵守されない場合であって、当社の株券等を15%以上保有する者が出現し、もしくはそのような者が出現する可能性のある公開買付けが開始されたときには、株主価値向上の観点から、当社株式の大量買付けに対する対抗措置として、取締役会の決議により新株予約権の無償割当が行われることとなります。

なお、平成20年8月7日開催の取締役会において、法令改正に伴う用語等の修正を行うとともに、平成21年5月29日開催の取締役会において、「当社株式の大量買付けに関する適正ルール（買収防衛策）」（以下、「本ルール」といいます。）に定めた見直し検討条項に基づき見直し検討を行い、本ルールの修正を行うことを決議し、同日付で公表しております。

具体的には、法令改正に伴う用語等の修正を行っておりますが、本ルールの考え方や手続きに変更を加えたものではありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は724百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	137,000,000
計	137,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	78,000,000	78,000,000	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	単元株式数 100株
計	78,000,000	78,000,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	—	78,000,000	—	14,286	—	17,065

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

(平成23年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,558,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 71,374,100	713,741	—
単元未満株式	普通株式 67,000	—	—
発行済株式総数	78,000,000	—	—
総株主の議決権	—	713,741	—

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

② 【自己株式等】

(平成23年6月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ニチコン株式会社	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地	6,558,900	—	6,558,900	8.41
計	—	6,558,900	—	6,558,900	8.41

2 【役員】の状況

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおける役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	執行役員常務 生産本部長 兼生産本部設備部長	取締役	執行役員生産本部長 兼生産本部設備部長	吉田 茂雄	平成23年7月1日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,143	16,224
受取手形及び売掛金	28,465	30,949
有価証券	3,907	4,303
商品及び製品	7,389	7,793
仕掛品	5,276	5,255
原材料及び貯蔵品	4,937	5,042
その他	1,280	1,077
貸倒引当金	△85	△82
流動資産合計	65,315	70,564
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,174	13,984
機械装置及び運搬具（純額）	14,348	15,135
その他（純額）	6,154	8,294
有形固定資産合計	34,677	37,414
無形固定資産	606	552
投資その他の資産		
投資有価証券	27,497	25,371
その他	3,012	2,713
貸倒引当金	△549	△549
投資その他の資産合計	29,960	27,535
固定資産合計	65,244	65,502
資産合計	130,559	136,067

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,401	18,211
短期借入金	3,800	3,800
未払法人税等	1,079	796
賞与引当金	910	475
その他の引当金	36	36
その他	7,733	12,934
流動負債合計	30,960	36,254
固定負債		
退職給付引当金	3,677	3,550
その他	1,992	1,929
固定負債合計	5,670	5,480
負債合計	36,630	41,734
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,286	14,286
資本剰余金	17,069	17,069
利益剰余金	72,462	73,174
自己株式	△8,116	△8,116
株主資本合計	95,701	96,413
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,884	1,772
為替換算調整勘定	△4,836	△4,871
その他の包括利益累計額合計	△2,952	△3,098
新株予約権	88	—
少数株主持分	1,090	1,017
純資産合計	93,928	94,332
負債純資産合計	130,559	136,067

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	25,203	29,587
売上原価	21,274	24,443
売上総利益	3,929	5,144
販売費及び一般管理費	2,811	2,933
営業利益	1,118	2,210
営業外収益		
受取利息	61	66
受取配当金	136	112
持分法による投資利益	—	1
その他	49	42
営業外収益合計	248	223
営業外費用		
支払利息	11	8
持分法による投資損失	16	—
為替差損	591	385
その他	20	42
営業外費用合計	639	437
経常利益	726	1,996
特別利益		
新株予約権戻入益	6	88
その他	18	2
特別利益合計	24	90
特別損失		
固定資産処分損	5	1
投資有価証券評価損	—	225
特別損失合計	5	227
税金等調整前四半期純利益	745	1,859
法人税、住民税及び事業税	252	514
法人税等調整額	49	41
法人税等合計	302	556
少数株主損益調整前四半期純利益	443	1,303
少数株主利益	39	55
四半期純利益	403	1,247

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	443	1,303
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△1,334	△112
為替換算調整勘定	△372	△46
その他の包括利益合計	△1,706	△159
四半期包括利益	△1,263	1,144
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,291	1,101
少数株主に係る四半期包括利益	28	43

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	745	1,859
減価償却費	1,750	1,851
投資有価証券評価損益(△は益)	—	225
売上債権の増減額(△は増加)	△765	△2,597
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,015	△545
仕入債務の増減額(△は減少)	1,552	971
その他	1,104	1,255
小計	3,371	3,020
法人税等の支払額	△216	△767
その他	187	170
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,343	2,423
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	2,001	1,500
有形固定資産の取得による支出	△1,052	△921
投資有価証券の取得による支出	△2,042	△201
その他	7	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,086	390
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△464	△535
その他	△73	△118
財務活動によるキャッシュ・フロー	△537	△653
現金及び現金同等物に係る換算差額	△392	△78
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,326	2,081
現金及び現金同等物の期首残高	14,727	14,143
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 16,053	※ 16,224

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (百万円)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) (百万円)
現金及び預金 16,053 預入期間が3か月を超える定期預金 —	現金及び預金 16,224 預入期間が3か月を超える定期預金 —
現金及び現金同等物 16,053	現金及び現金同等物 16,224

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	464	6.5	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	535	7.5	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内、1円00銭は創立60周年記念配当金であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

当社グループは、「コンデンサおよびその関連製品」の製造ならびに販売を主な事業としており、各拠点に製品の販売もしくは製造、またはその両方の機能を置き、本社はグループ全体の戦略を立案し、事業活動を展開しております。当社グループは、各拠点別を基礎とした事業セグメントから構成されており、経営意思決定および業績評価を行っておりますが、当該事業セグメントの経済的特徴、製品およびサービスの内容、製品の製造方法または製造過程やサービスの提供方法などの要素が概ね類似していることから、「コンデンサおよびその関連製品」の単一の報告セグメントとしており、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円65銭	17円47銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	403	1,247
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	403	1,247
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,442	71,440
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—————	—————

(注) 1. 前第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月8日

ニチコン株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 一浩 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長野 秀則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチコン株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチコン株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。